

平成22年 5 月31日

砺波医師会誌

杏和だより

第193号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕・何もしないことは罪です	金井 正信	2
〔砺波医師会役員〕		3
〔活動報告〕		5
〔経過報告〕 続・市立砺波総合病院の混乱	山田 泰士	8
〔散居村〕・時には読書	山下 良平	10
・とわず語り	吉田 武雄	12
・中国式乾杯 ハルピンの冰雪祭り	浅山 邦夫	13
・黒船来襲何度目?	網谷 茂樹	14
〔新入会員紹介〕	市立砺波総合病院 産婦人科 金枝 貴史	16
〔編集後記〕	福井 靖人	17

発行所 砺波市幸町 6 番 4 号

砺波医師会

発行人 砺波医師会長 金井 正 信

何もしないことは罪です

砺波医師会長

金 井 正 信

今年の4月から会長職に選任されました。

あまり根回しを上手にして物事を進めるタイプではないのでいろいろとギクシャクするとは思いますが、よろしくお付き合いくださいますようお願いいたします。

さて、最近の医療界の問題点は？というところ、研修医制度のもたらした深刻な大学病院の医師不足とそれを補充するための地方公立病院からの派遣医師の引き上げ、地域の病院での勤務医不足、地域医療の崩壊、医療費の削減計画による病院経営の赤字とそれによる閉院や診療枠の縮小などなど挙げるとキリがありません。実に不満で不愉快です。

では、医師会は、これらの問題に何をしてきたのでしょうか？あるいは、私も含めてわれわれ医師会員は何をしましたか？

日本医師会は、中医協その他に委員を送り、そのつど私たちの意見をそれなりに代弁してくれているように思いますが、しかし、通りません。で、私たちは、やっぱりダメだと思いつつ、黙って黙々と淡々とやっていますか。なんとなく、真綿で首を絞められるような閉塞的な感情を抱きつつも、今ひとつ戦うほどの気力もなく、なんとなく無関心を装っているといったところではないでしょうか。どこをどうつつけばよいかも分からず、なんとなく、なされるままに過ごしている気がします。

私は、このように何もしないでいることが今の医師会の、一番悪いところ、最初に正すべき最も根本的な問題であると考えています。ダメでも元と同じこと、どうせダメだろうと思わないで、言うだけいってみよう、やるだけやってみようと思わないといけませんか？少なくともこのままじっとしていることはできません。そんなの日本医師会がやればいいんだよといわれそうですが、考えてみてください。日本医師会は、われわれ砺波医師会のような地域の医師会の集まりで、私たちも日本医師会員です。どんな問題点をどうすればいいのか砺波医師会でも考えてみましょう。

前にも話したことがあります。教育を受けた知識人が何も意見を述べず、何もしないでいることは罪です。これからの砺波医師会が、皆さんの意見を述べる場となれるよう努力していきたいと思えます。ふるって、気軽に、ご参加ください。

砺波医師会役員

(平成22年4月1日～24年3月31日)

金井会長

杉下副会長

- ① 砺波医師会担当業務
- ② 富山県医師会担当業務

	監 事		理 事							副会長
豊田 葉子	柳下 肇	広野 隆	福井 靖人	坂下 泰雄	藤井 正則	山下 良平	大澤 謙三	伏木 弘	伊東正太郎	杉下 尚康
② 女性医師	② 乳幼児・学校保健 学校心臓健診		② 広報・ネットワーク、准看護学院 障害者福祉医療	② ① 地域保健、救急医療 救急医療、地域保健・健康教育	② ① 産業保健・防災、 庶務・会計・記録 医療経済、産業保健、 健康スポーツ医学	② 学術・生涯教育、環境保健、 がん検診特別	② ① 在宅医療、特定健診・特定保健指導 特定健診・特定保健指導	② ① 臨床検査センター、保健診療部 会、介護保険 社会保険、介護保険	① 病診連携、地域保健	② ① 庶務・会計・記録 医療安全対策、会館建設(将来 構想)検討、公益法人検討

議 長	仲村 洋一		副 議 長		吉田康二郎	
砺波医師会顧問	柴田 道也	平川 秋彦	河合 康守	高橋 卓朗	永井 忠之	
裁 定 委 員	大沢 真夫		吉田 武雄		福井 悟	

役 職 名	氏 名
砺波医療圏急患センター所長	金井 正信
富山県砺波地域産業保健センター所長	佐伯 俊雄
富山県医師会理事	山下 泉
富山県医師会代議員	金井 正信・杉下 尚康
富山県医師会予備代議員	坂下 泰雄・藤井 正則
富山県医師会裁定委員	河合 康守
富山県医師国民健康保険組合理事	山本 郁夫
富山県医師国民健康保険組合組合会議員	坂下 泰雄
富山県医師信用組合理事	網谷 茂樹
富山県医師協同組合理事	杉下 尚康
富山県医師協同組合総代	永井 忠之・吉田康二郎
	柳下 肇・豊田 葉子
富山県医師連盟執行委員(支部長)	杉下 尚康
富山県医師連盟執行委員	山下 泉

【各種委員会委員等】

役 職 名	氏 名
砺波准看護学院運営理事（4名）	金井 正信、杉下 尚康
	伊東正太郎、福井 靖人

【砺波市】

役 職 名	氏 名
砺波市健康づくり推進協議会委員	山本 郁夫
砺波市訪問看護事業運営委員（4名）	金井 正信、杉下 尚康
	大澤 謙三、山下 良平
砺波市障害程度区分判定等審査会委員（2名）	福井 靖人、山下 良平
砺波市歯科保健推進協議会委員	大澤 謙三
砺波市防災会議委員	金井 正信
砺波市国民保護協議会委員	金井 正信
砺波市高齢者虐待防止ネットワーク運営委員	金井 正信

【市立砺波総合病院】

役 職 名	氏 名
肝疾患診療連携拠点病院等連絡協議会委員	山本 郁夫

【砺波広域圏関係】

役 職 名	氏 名
砺波地域メディカルコントロール部会委員	坂下 泰雄

【砺波地方介護保険組合】

役 職 名	氏 名
砺波地方介護保険推進委員会委員	山本 郁夫
砺波地方介護保険組合地域包括支援センター運営協議会委員	山本 郁夫
砺波地方介護保険組合地域密着型サービス運営委員会委員	山本 郁夫
介護認定審査会委員（8名）	山本 郁夫、津田 博
	豊田 葉子、仲村 洋一
	東出 慎治、藤井 正則
	伏木 弘、柳下 雅美

【富山県砺波厚生センター】

役 職 名	氏 名
富山県砺波厚生センター感染症診査協議会委員	杉本 立甫、角田 清志、又野 禎也
肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会委員	金井 正信

【富山県】

役 職 名	氏 名
富山県がん診療連携協議会研修部部別ワーキンググループメンバー（乳がん）	角田 清志
富山県肝炎診療協議会委員	金井 正信
富山県透析患者等発生予防連絡協議会検討委員	山本 郁夫
富山県医療審議会委員	金井 正信
富山県医療対策協議会委員	金井 正信

【富山県済生会高岡病院】

役 職 名	氏 名
富山県済生会高岡病院病診連携システム運営委員会委員	金井 正信、杉下 尚康、伏木 弘

【厚生連高岡病院】

役 職 名	氏 名
厚生連高岡病院病診連携運営委員会委員	金井 正信、杉下 尚康

活動報告

(平成21年11月～平成22年4月まで)

平成21年11月

- 9日 定例理事会
- 10日 会館建設（将来構想）検討委員会
- 11日 新型インフルエンザワクチン担当理事連絡会
- 16日 第43回砺波胸部疾患検討会
医師連盟執行委員会
- 17日 介護保険委員会（県医）
- 24日 学術講演会「日常診療における不整脈治療—Ⅲ群抗不整脈薬の使い方—」
富山大学附属病院循環器内科診療教授 藤木 明

平成21年12月

- 2日 第1回砺波地域産業保健センター小委員会
- 3日 砺波急患センタースタッフ会議
- 14日 定例理事会

平成22年1月

- 12日 県・郡市医師会長懇談会
- 13日 定例理事会
- 18日 第44回砺波胸部疾患検討会
- 19日 学術講演会「糖尿病地域連携パスの作成と運用」
独立行政法人国立病院機構
横浜医療センター統括診療部長 宇治原 誠
- 20日 救急医療委員会（県医）
- 21日 工場見学（成政酒造株）
- 30日 平成22年度砺波准看護学院入学試験

平成22年2月

- 2日 砺波准看護学院運営理事会
- 4日 平成21年度臨時総会（役員選挙）

- 8日 定例理事会
- 9日 砺波准看護学院入試合格発表
- 12日 介護保険—主治医研修会
「本県の介護保険の施行状況等について」
県高齢福祉課介護保険班長 高石 良一
「主治医意見書記入の手引きについて」
県高齢福祉課介護保険班主任 藤重 正宣
「主治医意見書記載上の留意点」
南砺市医師会理事 山之内 菊香
「砺波地方介護保険組合からの連絡事項」
砺波地方介護保険組合業務課主幹 得能 和子
「障害者自立支援法に係る主治医意見書について」
県障害福祉課自立支援係主任 大野 比早江
- 15日 第45回砺波胸部疾患検討会
産業保健小委員会（県医）
- 17日 砺波地域産業保健センター 第2回小委員会
- 18日 砺波市長と砺波医師会との懇談会
- 21日 砺波地域産業保健センター 健康相談会
- 23日 学術講演会「腎・心・脳連関を考えた高血圧治療」
滋賀医科大学 糖尿病・腎臓・神経内科講師 宇津 貴
- 24日 砺波地域産業保健センター 第2回運営協議会
- 25日 臨時代議員会
- 28日 肝疾患市民公開講座

平成22年3月

- 4日 砺波准看護学院卒業式
平成22年度地域産業保健センター事業に係る連絡会議
- 8日 定例理事会
- 11日 砺波医療圏急性心筋梗塞クリティカルパス研修会
- 15日 第46回砺波胸部疾患検討会
- 16日 砺波・南砺・小矢部市医師会合同研修会

- 17日 肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会
- 18日 結核予防医師研修会
「砺波厚生センター管内の現状」
砺波厚生センター所長 黒澤 豊
「結核医療の基準とその解説」
財団法人結核予防会結核研究所
抗酸菌レファレンス部副部長 御手洗 聡
- 19日 訪問看護センター運営委員会
- 25日 保健事業説明会
- 28日 平成21年度定例総会
学術講演会「インクレチンをターゲットとした糖尿病治療の新たな展開」
黒部市民病院内科部長 家城 恭彦
- 30日 砺波医療圏医師会協議会

平成22年 4月

- 5日 県・郡市医師会協議会
- 8日 砺波准看護学院入学式
- 12日 定例理事会
- 15日 定例代議員会
- 19日 第47回砺波胸部疾患検討会
- 20日 予防接種広域化実施に関する担当理事連絡会議
- 26日 定例理事会
- 27日 学術講演会
「日常臨床に役立つ認知症診療のコツ－こうすれば診断・
治療は難しくない！－」
八千代病院神経内科部長 川畑 信也
- 30日 砺波医療圏新型インフルエンザ対策協議会設立に係る連絡会議

続・市立砺波総合病院の混乱

市立砺波総合病院 整形外科

山田 泰士

前回の杏和だよりに私のつたない文章を掲載いただきました。まずは、医師会員のみなさまに感謝いたします。多くの反響をいただきましたので、私の愚考をお伝えしたく再度紙面を頂戴いたします。

1. 病院内外の反応

当院の医師のうち医師会員は20人程度であり、多くの医師はコピーを手に入れられ読まれたようです。柴田先生の復帰を期待されていた医師の中には「よくあんな文章書いたな。自爆テロか？」とまで言われました。医局員に対する効果は、いままでの混乱の状況をよく知らされてなかったことによる不信感を少し改善したことだと思います。しかしながらその後の院長の言動は、医局員不信感をさらに大きくしています。

昨年3月柴田先生が辞職されたときに、杉本院長は医局員に対応の悪さを指摘されれば角田副院長ともども医局員の信頼を失ったので辞職すると言われました。信頼を回復すべく柴田先生復帰を求められたことは理解できますが、今回の結果に対しての責任は問われないのでしょうか。今回、何人かの開業医の先生からは、院長を辞めさせろという意見をいただきました。

反響が大きかったのが一部の看護師でした。コピーをどこからか手に入れて私に声をかけてくれました。声を直接かけてくれた看護師は、とても好意的でした。逆の立場の人は、反論もなく、このことを私と話をしながら様子でした。すごく解りやすい反応でした。看護師長たちはコピーを回覧したとの確実な情報を得ていますが、このことに関して意見を私に言うてくるものは一人もいませんでした。つまり、前回指摘した「私たちは楽しい」という看護師長たちの思いは凶星だったと確信しました。そもそも本来の業務のなかに医師会報の一文章をわざわざ回覧する風土に問題があります。

砺波市長には、医師会の会合でお会いした際にぜひ医局会に出席して医局員の意見を聞いてほしいとお願いしました。しかし、「質問状をつくってもらわないと行けない」との返事でした。議会でもあるまいし、あきれて次の言葉が見つかりませんでした。結局、医局員の救急体制をよりよいものにしようという思いよりも選挙で票につながる人たちの甘えを選択されたと判断しました。

前回の投稿以降、混乱は表面的にはおさまったように見えますが、内部はますます混乱しています。

2. 当院の混乱を解決するために

「市立砺波総合病院を愛している」とは言う自信がありません。このような思いを持っている当院職員が現時点でいないことは自信をもって言えます。「自分はこの病院を愛している」ということを口にする人間ほど自分のことしか考えていません。行動で「愛」を表現できないから言葉で表現し愛しているふりをします。今後必要なものは、近年希薄になったとされる愛国心のような、「愛病院心」ではないでしょうか。自分のために仕事をするのではなく、自分は病院のためになりたいと思う心だと信じています。医局員が病院を愛するには、病院が医局員を愛することが必要だと思います。しかし、事務職員の多くは、ころころ変わり市役所を愛しています。そのために病院に愛されていると感じている医局員がいない現状があります。

医師はよくも悪くも、大学で6年間学んできました。さらにさかのぼれば、難関とされる入学試験で選ばれた頭脳の持ち主であると信じます。問題があった際に新しいルールや権力でしばるといったような方法では、また抜け道をさがします。逆に選ばれた人間だからこそ持ち合わせる高いモラルにかけてみたいと考えています。「みなさんのモラルに期待します。」と言ったらよいとある開業医の先生にアドバイスをいただきました。この言葉を医局員には言い続けるつもりです。

4月に金井正信先生が医師会長に選出され、早速、医局員とコミュニケーションをとるためにメールアドレスを教えて欲しいとの申し出をいただきました。当院の抱える問題は院内だけで解決できないものも多く、さらに行政に両手両足を縛られた上層部のリーダーシップには期待できそうにありません。前回の投稿以降、医師会の先生方からは、あたたかい励ましのお言葉、メールをたくさんいただきました。金井会長はじめ医師会の先生方の私に対する愛情により、私は辞職を思いとどまることにしました。医師会の先生方とは、患者の紹介のみならず、砺波医療圏の診療体制に関して連携していきたいと考えています。厳しい状況ではありますが、良識ある医師会の先生方のさらなるご支援、ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

時には読書

やました医院

山下良平

この1月、米国の小説家、J.D.サリンジャーが91歳で亡くなったとの記事が新聞に載っていました。サリンジャーは1951年に発表した「The catcher in the rye (ライ麦畑でつかまえて)」で世界的に有名で、その後1953年以降、世間との交渉を絶って隠遁生活を送っていたことでも話題となっていました。

私がサリンジャーを知ったのは、10年ほど前に読んだ加藤典洋の「敗戦後論」の中でした。加藤典洋は昭和23年生まれで、現代文学を始めとして、思想、政治、歴史観などについて幅広く発言を行っている文芸評論家です。「敗戦後論」は、戦後50年（論文初出は1995年）においてなお政治の場で繰り返される中国や南北朝鮮を始めとするアジア諸国に対する戦争責任についての失言と謝罪、そして靖国神社問題など、日本人自身の中で解消されていない戦後思想空間における閉塞したねじれ構造に対して、イデオロギーに拠らない新たな視点からの解決策を提示しようと試みた力作で、1997年の発刊当時、大きな反響、賛否を巻き起こし、翌1998年の第9回伊藤整文学賞（評論部門）を受賞しています。

「敗戦後論」は、政治論の“敗戦後論”、文学論の“戦後後論”、そしてその二者をつなぐ“語り口の問題”の三部から構成され、著者は、第二部の“戦後後論”において、著者が戦前戦後でその思想性に変化がなかったと考える太宰治を取り上げ、その論理の展開の中でサリンジャー、そして「ライ麦畑でつかまえて」について言及しています。

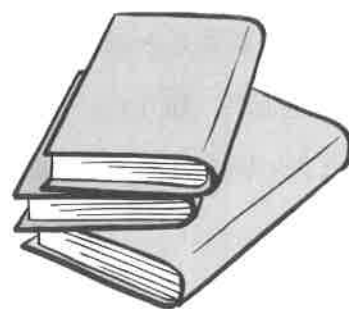
「ライ麦畑でつかまえて」については、2003年に村上春樹訳が新たに刊行され、読まれた方もあると思いますが、およそ次のようなあらすじです。

世の中や学校のインチキ（phony）に我慢ができず、3校目に当たるペンシルバニアのある高校も学業不振で退学となった16歳の主人公、ホールデン・コールフィールドが、クリスマス休暇に先立つある日、寄宿舎を出て自宅のあるニューヨークへと向かい、冬のニューヨークを約3日間放浪する話です。これと言った大きなエピソードもなく、饒舌にだらだらと独白調で書かれる文章は、正直なところ読み通すにはかなりの忍耐を要します。しかし、苦痛の中で終盤までなんとか読み進んでくると、ようやく二つの山に達します。一つ目は、幼い妹から「兄さんは、世の中のことが何もかもいやで、なりたいものなんてない

んでしょ。あるなら言ってみてよ。」と問い詰められ、主人公が「ライ麦畑の向こうは深い崖で、そのことを知らない、そのことが見えない小さな子供たちが、遊んでいて次々と崖から落ちて行く。自分は、そのまさに転げ落ちようとする子供の手をつかんで助ける人(catcher)にならなりたい。」と答える場面(第22章)で、小説の題名にもなっています。もう一つは、その後、主人公が、以前在籍した高校の先生を訪ね、生活がうまく行かないことをいろいろと話した後、それを一通り聞いた先生が、主人公が墮落の淵に向かって突き進んでいるようだとして心配し、「未成熟な人間の特徵は、理想のために高貴な死を選ぼうとする点にある。これに反して成熟した人間の特徵は、理想のために卑小な生を選ぼうとする点にある。」という、ある精神分析学者の言葉をメモに書いて渡す場面(第24章)です。これらの場面におけるこれらの言葉は、いずれもその後続く最終前章(第25章)との関連の中でより大きな意味を持つのですが、それぞれを単独で切り取ってみても、様々に解釈することが可能で、なかなか味わい深いものがあります。

加藤典洋が、戦後の日本人の精神的ねじれ構造を克服するために「敗戦後論」の中で提示した方策は、まず自国民300万人の戦没者の死をサリンジャーが言うところの無意味な死('we let the dead die in vain')として哀悼し、その哀悼を通じてアジア諸国2000万の戦没者の死を悼む、と言うものであります。突然このように書かれると、一体何のことだ、なぜ自国のために戦った兵士や戦禍にまみれた国民の死が無意味なのか、多大な損害を与えたアジア諸国民の死に対する哀悼の方が先ではないか、など様々な批判が容易に考えられますが、そのような議論をしては、いつになっても先へ進めない事も明らかです。「敗戦後論」が書かれてから既に10年以上が経ち、更に昨年、2009年の総選挙で政権交代がなされた現在においても、戦後の日本人の精神的ねじれ構造にはまったく改善がなく、このことがまさに今大きな懸案となっている普天間基地移転の問題にもつながっています。私は、日本人がどこかの時点で精神的に自らのcatcherとなり、成熟した個を確立して行かないと、アメリカとの関係はもちろんのこと、今後更に勃興していくことが確実な中国との関係においても抜き差しならない状況に陥るのではないかと危惧しています。

以上、時には日常を離れ、本の中に遊ぶ時間をもっと作りたいものだとの思いで、読みにくい文書を長々と書いてしまいました。要請された字数をはるかに超えてしまったことを御容赦ください。



とわず語り

寿康堂 吉田医院

吉田 武雄

「聞くは一時の恥、知らずは末代の恥辱。」という諺があった。佛語かもしれない。昭和25年に医師免許を受けてより60年が過ぎた。還暦を過ぎて、既に25年経過した。残りの人生を医者らしく有りたいたして講演会につまらぬ質問を繰り返している。

昭和25年当時は国民全体が粗食で、患者さんは苦痛の解消を求めて医師を受診する事が医療の原点で、その後、日本の経済成長と共に医学も社会環境も進化した。此れと共に十分な栄養食の普及で世界一の長寿国となった。①栄養食（動物蛋白食）の普及と共に②高脂血症が増加した。高脂血症は血中の高コレステロール+中性脂肪の混合比率で③5種類に型分類されている〔金大内科馬淵先生〕。高血圧・脳血管及び心臓疾患・認知症・癌など加齢と共に発病する疾患を④成人病と分類した。次いで過食と運動不足による肥満対策として⑤メタボリック症候群（脂質代謝異常症）〔富大内科小林先生〕が議題と為り、何れも発病の早期には苦痛がない事が特徴だ。特に肥満に併発する糖尿病や血管性疾患群などを生活習慣で予防可能な疾患として、⑥生活習慣病と分類して成人の最も関心がある疾患群だ。特に肥満は脂肪細胞が皮下に蓄積する⑦皮下脂肪タイプと臓器内に蓄積する⑧内蔵型肥満に分類する。⑦皮下脂肪は冬眠の肥満の様に飢餓に適応する生物の生存の本能だ。定期預金のように生命を維持するエネルギーだ。⑧内蔵型肥満は摂取カロリー過多が原因で、生活習慣で改善が可能な生活習慣病と分類されている。この様な状態をメタボリック症候群と称して生活習慣で改善可能な疾患群とされている。カロリーの通知預金の様な性格で歩行運動によって改善する。歩行で空腹感を感じれば内臓脂肪はエネルギーに転化消費される。食事療法として長寿食として動物蛋白食は必要だが、血管病の予防には四足の動物より二本足の鶏肉、更に青身の魚を食べる事でEPA・DHAを摂取して高脂血症の血栓を予防すると指摘されて、一般の大衆食に青身の魚類の食事が推奨されている。

（其処が、知りたい事）動物の種族の違いで脂質の相違が有る様だが、生活改善や食事の改善で臓器内の脂肪細胞まで改善が可能か？

中国式乾杯 ハルピンの冰雪祭り

市立砺波総合病院 地域総合診療科

浅山 邦夫

寒^{かん}の時期から春節をまたいで開催される厳寒の都市・ハルピンのイベントである。以前は、“氷祭り”と呼び旧市内の公園を会場に開かれていたのだが、現在は、アムール河の支流、市内を南から北に流れる大河・松花江^{ソンホアジョン}の旧市内とは対岸の河川敷きに会場を移し、その規模も美しさも相当にグレードアップしていた。会場を造形するための氷は結氷した松花江から切り出したものだ。雪は、実はハルピンは緯度が高すぎて雪像を造れるほどには降らないため人工雪を使って造っている。ただし、日中でも氷点下20度の世界なので期間中氷像や雪像が融ける心配はない。カチカチである。

ハルピンの中の通りが色とりどりの電飾に飾られ、あちこちに氷の彫刻が造られている。そして祭りの広い会場にはいたる所、世界の有名な建造物が氷で実物に迫るサイズで造られている。その氷の内部をくりぬいて色とりどりの電飾が光り、巨大な建物の最上部まで輝いている。実に美しく、楽しく、そして幻想的な世界を満喫させてくれる。まさに、中国のインターナショナルなイベントのひとつに衣替えしていた。とは言え、厳寒のハルピンを訪れる外国人の姿は夏場に比べればずっとまばら。新潟空港からハルピンへは直行便が飛んでおり、2時間15分で到着する。機会があれば皆さんもぜひ一度堪能していただきたい。

当院がハルピンの黒龍江省医院と医学友好交流を始めて今年、2010年で30周年を迎える。今日まで、当院で研修した黒龍江省医院の職員は79名を数える。これだけ多いと名前が出てこない。すでに退職された方もあるが在職中のみなさんはそれぞれに病院の幹部、中堅として活躍されている。そして私たちが訪問するといつも集まり、熱烈歓迎して下さる。ハルピンの街も友好交流を始めた当時とすっかり様変わりした。交流30年の前半は、一言で言うとハルピンは黒い色の街との印象が強かった。後半は、おそろしく速いスピードと広範囲にわたり変化が進み、今や昔の面影もないまでに、明るい色の街に変わった。高層ビル群に高速道路、高架橋、輝くイルミネーション。我が砺波は、この30年間にいくらか

新しい道路ができたぐらいの変化だ。中国社会のすさまじいエネルギーを感じないわけにはいかない。しかし、いつ訪問しても変わらないと感ずるのは、中国の友人たちの砺波総合病院に対する温かい思いである。それは、人と人との付き合いこそを大切にしてきた砺波式交流の故であると思っている。

1980（昭和55）年 黒龍江省医院と医学友好交流はじまる。

市立砺波総合病院創立50周年記念誌（1998）：99頁。



黒船来襲何度目？

あみたに医院

網谷茂樹

テレビでは龍馬伝を放送し、黒船来襲からの日本人の心理の変化をうまく表現しているのでついつい日曜日はテレビを見てしまいます。徳川幕府の対応や尊王攘夷の動きは、現在でもアメリカからの、部門別の解放要求に対する日本人の反応とまったく同じなので、生活がいくら便利になっても、文明が進んだといっても人間はかわらないのだなとしみじみ思います。

今回、ここで書くのは、沖縄の基地問題ではなく5月の下旬に発売されるアップルのiPadのことです。前回の黒船来襲は約10年前のiPodの日本上陸でした。音楽携帯プレーヤーとしてソニーのウォークマンは世界に輸出され世界制覇をなしとげた瞬間その地位はiPodに奪われてしまいました。アップルの音楽配信モデルはいまや90カ国でスタンダードとなり、人類が携帯する音楽はiPodなしでは考えられない状態になりました。しかし、日本の一部の攘夷派はまだ開国に応じず、アップルへの音楽配信契約をむすんでいないため、

iPodではダウンロードできない日本の曲がたくさんあります。黒船に対抗して、日本でも黒船をつくってiPodに対抗しようとしています。売れず、業績は低迷しました。でも国民にとってみればiPodは便利で黒船がきてくれて良かったと思っている人は多いのではないのでしょうか。若い人は黒船とさえ思っていないでしょう。10年前の事件は音楽業界の黒船でした。このためレコード会社はビジネスモデルの変化で売り上げを大きく落として苦しんでいます。

では今回の黒船はどんな変化を及ぼすのでしょうか。おそらく、また日本国民は、iPadで便利になると思います。今回の攘夷派は、出版業界でしょう。日本独自の電子出版を携帯で開発し、紙の出版も低迷しながらも守ってきた日本に、いつでもどこでも本を読める端末が来襲するのです。でも攘夷運動はまたもしりすぼみになるでしょう。攘夷運動すら起きない可能性があります。iPodがあまりにも衝撃的だったからでしょう。アメリカではもう発売になり爆発的に売られています。すこし独占禁止の調査が始まり暗雲もありますが。

何でもコンピューターに乗っちゃうとコストが安くなり、企業にとっては利益がなくなり、業績は悪化しますが、ユーザーは値段が安いのでどんどんひろがって、結局攘夷運動は、消滅していくのではないのでしょうか。医療に目を向ければ、アメリカではネット上で無料の電子カルテサービスまで始まっています。これまでの、何回かの黒船来襲の歴史はこの繰り返しだったと思いますが、あんまり書くと攘夷派に暗殺されそうなのでここで終わりにします。



新入会員紹介

市立砺波総合病院 産婦人科
金 枝 貴 史

この度医師会に入会させていただきました、金枝貴史（かなえだたかし）と申します。ちょっと変わった名字ですが、元々は栃木県的那須地方にいたようです。生まれは東京の湯島で、高校まで埼玉で育ちました。日本大学医学部を卒業後、平成7年日本大学産婦人科学教室に入局。日大板橋病院のほか、日大光が丘病院、東十条病院、横須賀市民病院、駿河台日大病院などの関連病院で勤務してまいりました。現在は金沢大学産婦人科の医局に在籍させていただいております。平成16年に妻の実家のある北陸へ移り、現在勤務している砺波総合病院も5年目となりました。先日産婦人科学会に参加した折、東京時代の旧友から「だいぶ言葉が変わってきたな」との指摘をうけ、徐々に富山にも馴染んできたなど実感した次第です。

さて、砺波総合病院産婦人科の診療内容の特徴です。久しく全国的な分娩数の減少がいわれております。当院でも例外ではなく若干減少傾向にあります。数の減った分だけ、さらに安全確実な診療を目指すのは当然ですが、産前産後に助産師が積極的に介入する機会を設ける等の工夫により、患者様の快適性や満足度の高い診療を目指しております。また、産科としての妊娠分娩管理に加えて、婦人科としてより低侵襲な手術を目指して腹腔鏡手術を積極的に行っている事を挙げる事が出来ると思います。産科での分娩・手術が減少した分を補うまでには至りませんが、手術適応のある良性疾患に対して常に最新の知見を取り入れつつ、腹腔鏡手術を行っています。卵巣腫瘍はもとより、子宮筋腫核出、子宮全摘に至るまで全腹腔鏡以下での処置を行い、この2-3年で手技的にもかなり安定してまいりました。

これからも医師会の発展のため、微力ではございますが、一生懸命に努力して参る所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

砺波医師会誌 第193号

編集後記

診療報酬が改定されて1カ月が経ちましたが、皆様方のところはいかがでしょう？ 当院では診療報酬明細書の発行について当初の予想とは異なっ
て大きな混乱は見られませんでした。入院患者の他院受診に関しては非
常に疑問を感じています。当院ではできない専門医療を受けるための他院
受診なのですが、入院医療機関においてはその日の入院基本料を30%減算
しなければなりません。一方外来医療機関においては専門的な薬以外は薬
剤料が請求できません。専門的な薬とはどういうものなのか、それぞれの
医療機関の合議で精算するというのも非常に曖昧であり、煩雑で、現場は
非常に混乱をきたしています。今までのように必要な医療が地域の中でス
ムーズに行われるように改善してもらいたいと願っています。

さて、砺波医師会は、金井新会長のもと新しい体制になりました。本年
度の活動方針として、医師会会員内の交流、特に勤務医会員とのコミュ
ニケーションの必要性を挙げられ、早速砺波総合病院の医局会におじゃまし
て意見交歓会を行いました。その後山田医局長の粋な計らいで懇親会が催
され、普段は紹介状をやり取りするだけの先生方と膝を突き合わせてお話
ができたことは非常に有意義でした。このような会や各種委員会を通じて
総合病院の先生方と積極的に意見交歓ができて行く予感がしました。

最後に、広報委員長4期目になります。気持ちを新たにして取り組んで
行きたいと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

福井 靖人 記

〔広報委員〕 山田 泰士、藤井 正則、柳下 肇、福井 靖人

